

平成21年度事業報告書

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会 (旧:社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会)

はじめに

I. 公益社団法人の認定

現在我が国では、平成20年12月1日に公益法人制度改革関連3法が施行され、公益法人制度改革が進められているが、当協会は平成22年3月19日付にて、公益社団法人への移行認定を受けた。

当協会は昭和37年創立以来、生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等豊かな国民生活の実現への寄与を目的として活動してきた。今般の認定に際しては、今後も協会創立精神であるゴルフの普及振興を引継ぎ、公益社団法人として公益目的事業を通じて、民による公益への積極的な参画により、社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

また、公益法人の認定を機に、法人名称を平成22年4月1日付にて「社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会」(主管官庁:経済産業省)から、平成6年社団法人格取得前の「日本パブリックゴルフ協会」(主管官庁:内閣府)に復帰改称し新たにスタートした。

II. 事業活動の概況

当協会は創立(昭和37年3月)以来一貫して、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の形成に寄与することを目的として活動してきた。

1. 事業内容は、下記の事業を中心に活動している。

- (1) ゴルフ競技会の開催、並びにゴルフの普及振興のための諸施策の推進
- (2) ゴルフに関する調査・研究、セミナー・研修会の開催
- (3) 公平な統一ハンディキャップの普及振興
- (4) 助成金事業

2. この内、主たる事業である競技会開催事業の平成21年度の概況は、

- (1) 3大メイン競技のスクラッチ競技、「パブリック選手権、シニア選手権、ミッドアマ選手権」の参加者数は18,500名(前年度比▲664名、▲3.5%)。
- (2) アンダーハンディ競技「PGSスポンサー杯、PGSハンディ杯、PGSドリーム・エイジゴルフ大会、PGS西日本月例杯、PGS中部日本月例杯(みんなであうきうき旅ゴルフ)、PGS東日本クラブ対抗戦、PGS東日本プロ・アマチャレンジ」は19,576名(前年度比+1,038名、+5.6%)。合計38,0767名(前年度比+374名、+1.0%)の参加を得た。多数のアマチュアゴルファーの参加に深く感謝するとともに、当協会への期待と激励の大きさと受け止め、公益社団法人認定を機に、今後ますます充実した競技会の実現に向けて努力したいと考えている。

Ⅲ. 会議

1. 通常総会

平成21年度通常総会は、平成21年6月8日八重洲富士屋ホテル(東京都中央区八重洲2-9-1)において開催され、下記事項が議決承認された。

第1号議案 平成20年度事業報告書及び収支計算書及び財務諸表(案)の件

第2号議案 平成21年度事業計画書及び収支予算書(案)の件

第3号議案 理事・監事並びに役付役員交替(案)の件

2. 臨時総会

平成21年度臨時総会は、平成21年11月12日名張産業振興センター「ASPIA」(三重県名張市南町822-2-1)において開催され、下記事項が議決承認された。

第1号議案 公益社団法人の最初の代表理事選任の件

第2号議案 公益社団法人の定款(案)変更の件

3. 理事会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成21年 6月 8日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成21年 9月 3日	ロイヤルガーデンホテル
第3回	平成21年11月12日	名張産業振興センター「ASPIA」
第4回	平成22年 3月18日	ロワジールホテル那覇

4. 合同委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成21年 6月 8日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成21年 9月 3日	ロイヤルガーデンホテル
第3回	平成21年11月12日	名張産業振興センター「ASPIA」
第4回	平成22年 3月18日	ロワジールホテル那覇

5. 正副委員長会議

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 2月18日	ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート

6. 財務委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 2月26日	ホテル銀座ラフィナート

7. 事業・競技・ハンディキャップ合同委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成21年 8月20日	メルパルク名古屋

8. スポンサー会議

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成21年12月 2日	ホテル銀座ラフィナート

9. PGS セミナー

題記セミナーを下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成21年 6月 8日	八重洲富士屋ホテル
	(講師) 縣 和一(西日本グリーン研究所所長、九州大学名誉教授) (テーマ) ゴルフ場はエコ・パーク	

IV. 監査

平成21年5月28日 平成20年度決算報告書の監査実施(於:協会事務局)

V. 会員数

1. 平成22年3月31日現在の会員数

(1) 正会員 :90団体

東日本地区	中部日本地区	西日本地区	北海道・青森地区
33	11	41	5

(2) 賛助会員 :6団体

2. 平成21年度入会の正会員・賛助会員

(1) 正会員 :4団体

東日本地区	西日本地区
TOSHIN TOKYO North Hills Golf Course 榛名の森カントリークラブ	ベアズパウ ジャパン カントリークラブ 宜野座カントリークラブ

(2) 賛助会員 :2団体 株式会社ズズケン、キャロウェイゴルフ株式会社

3. 平成21年度退会の会員及び内訳

(1) 正会員 :1団体 セントレジャーゴルフクラブ勝浦(中部日本地区)

(2) 賛助会員 :1団体 株式会社プロギア

4. 正会員・賛助会員数の推移

単位:団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成16年度	5	4	84	0	1	5
平成17年度	3	3	84	0	1	4
平成18年度	4	3	85	1	0	5
平成19年度	8	5	88	0	1	4
平成20年度	2	3	87	1	1	4
平成21年度	4	1	90	2	0	6

5. 正会員の變動

(1) 運営会社変更

会員コース名	新運営会社	旧運営会社
入来城山ゴルフ倶楽部	PGMプロパティーズ2株式会社	PGPアセットホールディングス1 有限会社
ハーモニーズヒルズゴルフクラブ	PGMプロパティーズ2株式会社	イトーピア栃木株式会社
津軽高原ゴルフ場	株式会社津軽高原ゴルフ場	ウインターガーデンリゾート株式会社
セントレジャーゴルフクラブ馬頭	日本緑地開発株式会社	株式会社セントレジャー・オペレーションズ
セントレジャーゴルフクラブ水戸	日本緑地開発株式会社	株式会社セントレジャー・オペレーションズ

(2) 会員コース名変更

新コース名	旧コース名
うぐいすの森ゴルフクラブ&ホテル馬頭	セントレジャーゴルフクラブ馬頭
うぐいすの森ゴルフクラブ水戸	セントレジャーゴルフクラブ水戸

6. 正会員の勧誘活動

当面100正会員を目標に新規会員の勧誘を推進している。平成21年度は4会員が入会、1会員が退会し、年度末現在の正会員数は90会員である。業界の種々の事情から一進一退の状況にあるが、公益社団法人認定を梃子に長年の念願である正会員100事業所を目指して、今後とも勧誘活動に努めたい。

VI. 創立50周年記念事業

当協会は本年創立48年目を迎えたが、2年後に50周年と言う記念すべき節目年を控え、平成21年度第4回理事会(平成22年3月18日開催)にて、記念事業として「協会50年史」の編纂を決定し、平成22年度より本格的に着手する。

VII. 主たる事務所及び事務局の構成

1. 主たる事務所

東京都中央区銀座1丁目19番16号 銀座昭和ビル

2. 事務局の構成(平成22年3月31日現在)

職員数 5名

平成21年度事業活動報告

■1. ゴルフ競技会開催事業

I. 概況

当協会はゴルフの普及振興のためにゴルフ競技会開催事業を行っている。競技会の参加資格は
1. アマチュアゴルファーである、2.ハンディキャップは20.0程度以上の方が望ましい、の2点である。言わばアマチュアゴルファーであれば、誰もが日頃の研鑽の腕試しの場として出場できる門戸の開かれた競技会である。

平成21年度の競技別参加者数は下表の通りで、3大メイン競技のスクラッチ競技「パブリック選手権、シニア選手権、ミッドアマ選手権」は18,500名(前年度比▲664名、▲3.5%)、アンダーハンディ競技は19,576名(同+1,038名、+5.6%)、合計38,767名(同+374名、+1.0%)の参加を得た。

II. 開催競技会

単位:名

競技会(略称)	平成21年度参加者数
I.スクラッチ競技	
1.第43回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	8,390
2.第9回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	1,046
3.第15回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	1,857
4.第15回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	435
5.第6回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	1,005
6.第3回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドアマ)	5,767
小計	18,500
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯	7,312
2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯、(2)グランドマンズリー	817
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) : (1)個人戦、(2)団体戦	1,014
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) : 個人戦	181
5.PGS西日本月例杯	9,357
6.PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)	555
7.PGS東日本クラブ対抗戦	311
8.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	29
小計	19,576
合計	38,076

III.スクラッチ競技

1. 平成21年度競技の改善点

(1)ミッドアマ選手権競技東日本地区決勝(男子)は、1地区決勝から2地区決勝制(A・B地区)へ移行し、競技の円滑な開催と地区決勝、並びに全日本への出場チャンスの拡大を図った。

(2)新規競技:高齢者対象「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」スタート

新規競技として、高齢者対象「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」がスタートした。当協会は高齢者の健康保持増進に資することを事業目的の一つとしているが、当競技は65歳以上のゴルファーが対象で、当協会独自のハンディキャップ「PGSドリーム・ハンディキャップ」(年齢に歩数に応じ

たハンディキャップを加算)による競技で、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技と考えている。

(3)新規競技:PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)スタート

中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)がスタートした。当協会はJGAハンディキャップの普及振興に努めているが、ゴルファーは自分のゴルフの技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があり、アマチュアゴルファーの証であるJGAハンディキャップの一層の拡大を目指した競技会である。

(4)PGS 東日本クラブ対抗戦

当競技は本年度より、東日本地区の協会競技として新たにスタートした。JGAハンディキャップの普及を目指したクラブ対抗戦で、東日本地区を4ブロック分けしブロック大会(予選)を開催、各ブロックより男女各2チーム、東日本大会開催クラブより男女2チーム、並びに前年度優勝クラブ代表男女2チームを加えた、合計12チームで東日本大会を開催する。

(5)PGS 東日本プロ・アマチャレンジ

当競技も本年度より、東日本地区の協会競技として新たにスタートした。東日本地区で開催のPGSアンダーハンディ競技参加者の中より、抽選で選ばれた30名のアマチュアゴルファーがシニア・プロと一緒にラウンドできると言う夢の企画です。プロゴルファーのワンポイントレッスンが必ずアマチュアゴルファーのゴルフ技量の向上に役立つと確信します。

(6)(財)日本ゴルフ協会主催競技へのシード権の付与

全日本女子シニア選手権、全日本ミッドシニア選手権、全日本ミッドアマ選手権(男子・女子)の上位各2名に、(財)日本ゴルフ協会主催の「日本女子シニアゴルフ選手権競技」「日本ミッドシニアゴルフ選手権競技」「日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技」「日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技」へのシード権が与えられることになった。

(7)地区連盟主催競技へのシード権の付与

西日本女子パブリック選手権、西日本シニア選手権、西日本ミッドシニア選手権、北海道・青森ミッドアマ選手権の各優勝者に、四国ゴルフ連盟主催の「四国女子アマチュアゴルフ選手権競技決勝」「四国シニアゴルフ選手権競技決勝」「四国ミッドシニアゴルフ選手権競技決勝」、北海道ゴルフ連盟主催「北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権競技」、東北ゴルフ連盟主催「東北ミッドアマチュアゴルフ選手権競技決勝」へのシード権が与えられることになった。

(8)競技名商標登録

次の通り、①スクラッチ競技、及び②PGSドリーム・エイジゴルフ大会に関して、競技名他を商標登録した。

①スクラッチ競技

商標登録名	商標登録番号
1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82205
2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82207
3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82206
4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82208
5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82209
6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82210
7. 全日本女子パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技	商願2008-82211

②PGS ドリーム・エイジゴルフ大会

商標登録名	商標登録番号
1. PGS ドリーム・エイジゴルフ大会	登録第5291501号
2. PGS ドリーム・エイジハンディキャップ	登録第5291502号
3. PGS ドリーム・エイジシュート	登録第5291503号
4. PGS ドリーム・エイジチャリティ募金	登録第5291504号

(9) 競技規程・マニュアルの整備

競技運営に係る各種規程・マニュアルを整備した。

1. 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会競技規程
2. PGS競技担当者マニュアル ～選手権競技編～
3. PGS競技担当者マニュアル ～アンダーハンディ競技編～
4. PGS選手権競技 ～競技委員のための競技運営マニュアル～
5. PGS各機関・事務局の役割について ～競技規程より抜粋～
6. 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会 ハンディキャップ規程
7. PGS選手権競技 コース・セットアップマニュアル

2. 競技会開催実績

(1) 参加資格

競技名	参加資格	年齢資格
I. スクラッチ競技		
1. パ選	1. ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい。 2. 日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー。 3. 高等学校までに在学の生徒は、学校長等責任者の参加許可証の提出が必要。	なし。 男子55歳以上。 女子50歳以上。 男子65歳以上。 男子、女子共30歳以上。
2. 女子パ選		
3. シニア		
4. 女子シニア		
5. ミッドシニア		
6. ミッドアマ		
II. アンダーハンディ競技		
1. アンダーハンディ競技(予選) (1) PGS スポンサー杯 (2) PGS ハンディ杯	PGS会員でJGA (PGS)ハンディキャップ取得者。	なし。
2. アンダーハンディ競技(決勝) (1) ダンロップ杯 (2) グランドマンズリー		
3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) (1) 個人戦 (2) 団体戦	男女とも65歳以上。	男女とも65歳以上。
4. PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) (1) 個人戦		
5. PGS西日本月例杯	PGS会員でJGA (PGS)ハンディキャップ取得者。 JGA ハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー。	
6. PGS中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)		

7.PGS東日本クラブ対抗戦	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップ取得者。
8.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	

(注)PGS 会員:ハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

(2)参加申込者数の状況

単位:名

競技	予選	シニア	ミッドアマ	UH 競技	ドリーム・エイジ	西日本 月例杯	中部日 本 月 例 杯	東日本ク ラブ対抗戦	東日本プ ロ・アマチャ レンジ	合計
H21	9,436	3,297	5,767	8,129	1,195	9,357	555	311	29	38,076
H20	9,971	3,435	5,758	8,167	—	9,958	—	389	24	37,702
増減	▲535	▲138	9	▲38	1,195	▲601	555	▲78	5	374

(注)競技名は略称表示。正式競技名は前記1.競技会(略称)を参照。

3.競技会

(1)平成21年度第43回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成21年度パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、男子8,390名(前年度比▲436名、▲4.9%)、女子1,046名(同▲99名、▲8.6%)、合計9,436名(同▲535名、▲5.3%)であった。平成18年度まで5年連続して1万名を超える趨勢であったが、世の中の不況を反映してか、残念ながら本年度も1万名の大台に今一步の結果となった。

◆競技日程

1. 予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合 計
予選数	40	17	36	2	93
申込人数(名)	4,109	1,480	2,657	144	8,390

2. 地区決勝

地 区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	セントレジャーゴルフクラブ馬頭	5/13(水)-14(木)	144
2.東日本 B	富士グリーンヒルゴルフコース	5/13(水)-14(木)	148
3.東日本 C	ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート	5/14(木)-15(金)	149
4.中部日本	森林公園ゴルフ場	5/20(水)-21(木)	167
5.西日本 関西	青野運動公苑アオノゴルフコース	5/19(火)-20(水)	170
6.西日本 中国	米子ゴルフ場	5/14(木)-15(金)	131
7.西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/19(火)-20(水)	99
8.西日本 九州	セントレジャーゴルフクラブ城島高原	5/14(木)-15(金)	154
9.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/31(月)-9/1(火)	89
合計			1,251

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ	6/9(火)-10(水)	147

(2)平成21年度第9回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合 計
予選数	25	7	23	1	56

申込人数(名)	519	160	345	22	1,046
---------	-----	-----	-----	----	-------

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	市原ゴルフクラブ柿の木台コース	5/12(火)	157
2.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	5/13(水)	112
3.西日本	西神戸ゴルフ場	5/8(金)	168
4.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/3(月)	22
合計			459

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	マスターズゴルフ倶楽部	6/3(水)-4(木)	119

(3)平成21年度第15回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成21年度シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、シニア男子1,857名(前年度比▲106名、▲5.4%)、シニア女子435名(同+8名、+1.9%)、ミッドシニア男子1,005名(同▲40名、▲3.8%)、合計3,297名(同▲138名、▲4.0%)であった。平成16年度ミッドシニア立上げ時には、シニア3部門(シニア、女子シニア、ミッドシニア)を同日・同会場開催としていたことから地区決勝進出が極めて狭き門であったが、平成17年度以降は選手の要望に応え、シニア男子とシニア女子・ミッドシニアを分離し、地区決勝・全日本の進出率を緩和した。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	26	10	27	1	64
申込人数(名)	771	483	571	32	1,857

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	9/23(水)-24(木)	156
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	9/17(木)-18(金)	173
3.西日本	奥津ゴルフ倶楽部	9/16(水)-17(木)	157
4.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/3(月)	32
合計			518

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/14(水)-15(木)	135

(4)平成21年度第15回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	13	6	15	34
申込人数(名)	201	102	132	435

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	9/30(水)	60
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	9/25(金)	44
3.西日本	トム・ワトソンゴルフコース	9/29(火)	48
合計			152

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	よみうりゴルフ ウェストコース	10/21(水)-22(木)	46

(注) 女子シニアとミッドシニア : 地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(5)平成21年度第6回全日本ミッドシニアパブリックゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	18	9	23	50
申込人数(名)	352	329	324	1,005

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	9/30(水)	104
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	9/25(金)	135
3.西日本	トム・ワトソンゴルフコース	9/29(火)	99
合計			338

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	よみうりゴルフ ウェストコース	10/21(水)-22(木)	96

(注) 女子シニアとミッドシニア : 地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(6)平成21年度第3回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

最近のパブリック選手権の傾向は、ジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著で、年齢別部門を新たに創設しアマチュアゴルファーの最も層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本パブリックミッドアマ選手権競技をスタートした。初年度1,415名、平成18年度1,494名の参加者を得、微増ながら確実な支持を得たので、平成19年度より機も熟したとの判断から、全日本を立ち上げた。平成19年度は地区決勝を実施せず(西日本地区のみ2次予選を開催)予選から全日本という変則的開催となったが、平成20年度より地区決勝を立ち上げた。

平成21年度の参加者数は、男子の部5,125名、女子の部642名、合計5,767名(前年度比+9名、+0.15%)で、順調裡に推移しておりミッド層の競技指向の強さを改めて実感している。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数(男子)	30	11	25	4	70
予選数(女子)	16	6	18	—	40
合計	46	17	43	4	110

申込人数(男子)(名)	2,470	1,056	1,512	87	5,125
申込人数(女子)(名)	307	107	228	—	642
合計(名)	2,777	1,163	1,740	87	5,767

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	セントレジャーゴルフクラブ水戸	7/30(木)-31(金)	144
2.東日本 B	草津高原ゴルフ場	7/29(水)-30(木)	150
3.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	7/29(水)-30(木)	165
4.西日本	ワールドカントリーゴルフクラブ	8/ 5(火)-6(水)	158
5.北海道・青森	セントレジャーゴルフクラブ札幌	7/31(金)	45

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ダンロップゴルフコース	9/9(水)-10(木)	165

IV.アンダーハンディ競技

1.PGS アンダーハンディ競技(予選) :(1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯

2.PGS アンダーハンディ競技(決勝) :(1)ダンロップ杯、(2)グランドマンズリー

平成21年度PGSアンダーハンディ競技は、PGSスポンサー杯79回、PGSハンディ杯27回、合計106回開催した。JGA・PGS ハンディキャップ登録者は約2万7千名で、平成21年度の競技参加者数は予選7,312名(前年度比+30名、+0.3%)、決勝817名であった。このところ予選参加者数が僅かとは言え減少傾向にあったが、漸く歯止めが掛かった状況となった。今後も参加基盤であるハンディキャップの普及推進に努め参加者の拡大を図りたい。

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	合計
PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	19	42
	ブリヂストン杯	10	5	9	24
	サンレオ杯	5	4	4	13
PGS ハンディ杯		12	7	8	27
合計		43	23	41	106

2. 予選参加人数

		東日本	中部日本	西日本	合計(名)
PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	1,273	554	1,336	3,163
	ブリヂストン杯	839	471	671	1,981
	サンレオ杯	288	361	265	914
PGS ハンディ杯		439	450	365	1,254
合計		2,839	1,836	2,637	7,312

3. 地区決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	市原ゴルフクラブ	11/ 5(木)	169
2.中部日本	セントレジャーゴルフクラブ亀山	11/ 5(木)	107

3.西日本	姫路シーサイドゴルフコース	11/19(木)	153
合計			429

(2) グランドマンズリー

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	11/19(木)	170
2.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	11/25(水)	99
3.西日本	京都大原パブリックコース	11/30(金)	119
合計			388

3.PGS ドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度までは、高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」〔主催：日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)〕を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による18ホール・ストロークプレーで、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

◆ 競技日程

1. 予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	7	7	13	1	28
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	8	7	13	1	29

(1) 18ホール・ストロークプレー。

(2) PGSドリーム・エイジハンディキャップ方式(年齢+歩行数によるハンディキャップ)により順位を決定。

(3) ゴールドティ使用。

2. 参加人数

単位:名

	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	412	270	435	9	1,126
2.団体戦	69	—	—	—	69
合計	481	270	435	9	1,195

3. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	10/27(火)	73
2.中部日本	森林公園ゴルフ場	10/20(火)	53
3.西日本	グランドオークプレイヤーズコース	11/10(火)	55
合計			181

(1) 競技方法 : 予選と同じ。

(参考) PGSドリーム・エイジゴルフ大会チャリティ募金寄贈

平成21年度PGSドリーム・エイジゴルフ大会のチャリティ募金額は506,513円となった。原則は、予選開催コースが最寄の社会福祉団体等に寄付するが、寄贈先事務局依頼分189,005円は、

社会福祉事業を目的に活動する「社会福祉法人中央共同募金(東京都千代田区霞ヶ関3-3-2)に寄贈した。

4.PGS西日本月例杯

PGS 月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るために、PGS 会員を対象として平成13年度にスタートした。以前は東日本、中部日本を含めて全日本事業であったが、現在は西日本地区のみが開催している。

平成21年度は開催数170回、参加者数9,357名(前年度比▲601名、▲6.0%)と苦戦した。今後一層 JGA ハンディキャップの普及振興に努め、JGA ハンディキャップの取得者の増加によりますます盛況な競技会にしたいと考えている。

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	65	47	23	35	170
申込人数(名)	3,303	3,205	1,702	1,147	9,357

(注)PGS 会員:ハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

5.PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)

平成21年度より、新規競技「PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会は、わが国唯一の公認ハンディキャップのJGAハンディキャップの普及に努めており、アマチュアゴルファーの証であるJGAハンディキャップの一層の拡大を目指した競技会である。

1.予選

(1)開催会場 :中部日本会員コース 11コース

(2)参加資格 ①アンダーハンディ競技 :PGS会員でJGAハンディキャップの取得者

②ダブルペリア競技 :PGS会員、及びJGAハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー

(3)競技方法 ①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

②ダブルペリア競技

(4)参加者数:開催11会場(中部日本地区加盟11コース)

	アンダーハンディ競技		ダブルペリア競技		合計
	男性	女性	男性	女性	
参加人数(名)	249	58	164	37	508

2.決勝

(1)開催日 :平成22年4月23日(金)

(2)開催会場 :名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)

(3)参加資格 :各予選の通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

(4)競技方法 :18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

(5)参加者数 :男性 40名、女子 7名、合計 47名

6.PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技として新たにスタートした。JGA ハンディキャップの普及振興を目的とした東日本加盟会員コースのクラブ対抗戦で、4ブロック(ABCD)でブロック予選を開催し、各ブロックより男女各2チーム、決勝大会開催クラブより男女2チーム、及び前年度優勝クラブ代表の男女2チームを加えた、合計12チームで決勝大会を開催する。平成21年度は、Bブロック大会が台風のため中止となったため3ブロックにて開催。ブロック大会には合計192名、決勝には

119名、合計311名が参加した。

1. ブロック予選

(1) 参加資格: 東日本地区会員クラブの何れかで PGS 会員登録をし、JGA ハンディキャップを取得しているアマチュアゴルファー

(2) 競技方法

① 18ホールストローク・アンダーハンディ競技 (JGA ハンディキャップ)

② ハンディキャップの下限 : 男子部門20.0、女子部門30.0

③ 順位決定 : 男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3) 開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、古河、ウインザーパーク、セントレジャー馬頭、セントレジャー水戸	イーストウッドカントリー倶楽部	9月17日
Bブロック	新玉村、草津高原、前橋、上武、朝霞、妻沼、新潟サンライズ、三井の森	妻沼ゴルフ場	中止
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、セントレジャー市原、八千代、ラヴィスタ、千葉よみうり	セントレジャーゴルフクラブ千葉	10月9日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル	富士見高原ゴルフコース	10月9日

(4) ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ (1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注) 決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する。

(5) 参加人数

	クラブ数	男子	女子	合計
Aブロック (下館)	6	42	13	55
Bブロック (妻沼)	0	0	0	0
Cブロック (市原千葉)	7	56	35	91
Dブロック (富士見高原)	4	31	15	46
予選計	17	129	63	192
決勝	20	74	45	119
合計	37	203	108	311

(注) Bブロックは台風のため中止

2. 決勝大会

(1) 開催会場 : 新玉村ゴルフ場 (群馬県)

(2) 開催日 : 前夜祭 平成21年10月28日 (水)・クラブ対抗戦 平成21年10月29日 (木)

(3) 参加資格 : ① PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ

② 決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ

(4) チーム編成 : 1クラブ男子部門8名・女子部門5名

(5) 競技方法 : ブロック予選と同様

(6) 参加人数 : 前掲の通り

7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ

平成21年度より東日本地区の協会競技として新たにスタートした。東日本地区開催の PGS アンダーハンディ競技参加の応募者の中より抽選で選ばれた30名のアマチュアゴルファーがシニアプロと一緒にラウンドできるという夢の企画。平成21年度は応募者50名の中から30名が選ばれ、当日は29名が出場した。

- (1)開催会場 :八千代ゴルフクラブ(千葉県)
- (2)開催日 :平成21年12月10日(木)
- (3)シニアプロ :鷹巣 南雄、青木 基正、新井 規矩雄、海老原 清治、小林 富士夫
- (4)参加人数 :29名
- (5)競技内容 :シニアプロ1名と、PGS東日本地区アンダーハンディ競技参加の応募者から抽選にて選ばれた3名が同組でプレーする
- (6)応募方法 :東日本地区開催のPGSアンダーハンディ競技に出場し、応募ハガキに競技開催コースの捺印を受けて、捺印数3個を1口として東日本地区連絡協議会事務局に申込み。
(注)1. 申込口数に制限はなし
2. 競技の捺印数は開催競技・開催会場により異なる
3. 応募者多数の場合は、抽選により参加者を決定。

8.協会誌「PGSニュース」の発行

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の模様、競技成績等を盛り込んだ記録誌として、「PGSニュース」を年2回発行(毎年2月、及び9月)し、競技参加者に対して無償配布している。「PGSニュース」は既に76号を重ね、我が国のパブリック・ゴルフ史としても貴重な資料である。

■2. ゴルフ普及振興事業

I.セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資する事業を実施した。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催した。

1. 平成21年度PGSセミナー開催実績

日時 :平成21年6月8日(月)
場所 :八重洲富士屋ホテル
テーマ:「ゴルフ場はエコ・パーク」
講師 :縣 和一(西日本グリーン研究所所長、九州大学名誉教授)

(参考)最近のPGSセミナー開催実績

- ①平成17年度 「ゴルフでたどる日米交流史」
講師:久保田誠一(大妻女子大学比較文学部 講師)
「ゴルフホームドクター制度導入によるゴルフ場活性化事例」
講師:大東将啓(PGA Dr.ティーチングプロ)
- ③平成18年度 「ゴルフ場業界の現状と生き残りの条件」
講師:降旗貞夫(日本ゴルフ場総合研究所 専務理事)

- ④平成19年度 「物理学から見たゴルフの楽しさ」
講師:八木一正行(宮城大学教授)
- ⑤平成20年度 「ゴルフのカラダ革命」
講師:宮田トオル(メデイカルケア院長)

2. 平成21年度研修会開催実績

(1)グリーンキーパー研修会

- 日時 :平成21年4月3日(金)
- 場所 :アリジカントリークラブ 花垣コース
- テーマ:「コースの現状について」
- 講師 :セントレジャーゴルフクラブ勝浦 榎木谷仁士
- テーマ:「これからのコースメンテナンスの動向について」
- 講師 :アリジカントリークラブ 花垣コース 矢崎吉郎

(参考)最近の研修会開催実績

- ①平成17年度 「平成17年度グリーン管理について」
「成長抑制剤プリモについて」
「猪被害防止対策について」
- ②平成18年度 「コース人員・資材・経費について」
「グリーン管理とコースを中心とした管理」
「リンクコースの特性と感知方法」
- ③平成19年度 「グリーンのオーバーシートについて」
「グリーン肥培管理及び今後の方向性」
「コース管理業務委託による一般管理」
- ④平成20年度 「コースセッティングについて」
「これからのゴルフ場のコース管理」
「ゴルフコース管理概況とインターシード計画」

II. 交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は先行き厳しいが、ゴルフ市場活性化のために業界諸団体は連携・協力して様々な活動を展開する必要がある。この様な観点から当協会は業界諸団体と連携・協力して、ゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開した。

1. 日本ゴルフサミット会議

(1)2010年第1回日本ゴルフサミット会議

- 日時 平成22年1月15日(金)
- 場所 ANA インターコンチネンタルホテル東京
- 内容 2010年活動テーマを決定
 - 1)環境問題への取り組みについて
 - 2)ゴルフ場利用税撤廃運動の継続
 - 3)国家公務員倫理規定における「ゴルフ」記述の削除
 - 4)楽しくゴルフをプレーしていただくためのキャンペーン活動の提唱

(2)ゴルフ新年会の開催

- 日時 平成22年1月15日(金)
- 場所 ANA インターコンチネンタルホテル東京

(3)日本ゴルフサミット会議運営会議に参加(隔月開催)

2. ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

- (1) 当協会はゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして、「はじめよう」「続けよう」「もっとゴルフを」をスローガンにゴルフ業界の活性化に向けて活動している。平成21年度はテーマ「はじめようゴルフを」として「スクランブルゴルフの普及」、「もっとゴルフを」として「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」を各団体と連携して活動した。
- (2) 定例委員会への参加(毎月1回定例会議)
- (3) ゴルフ市場活性化セミナーへの参画

3. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、ジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

4. ジャパンゴルフフェア2010の後援・出展

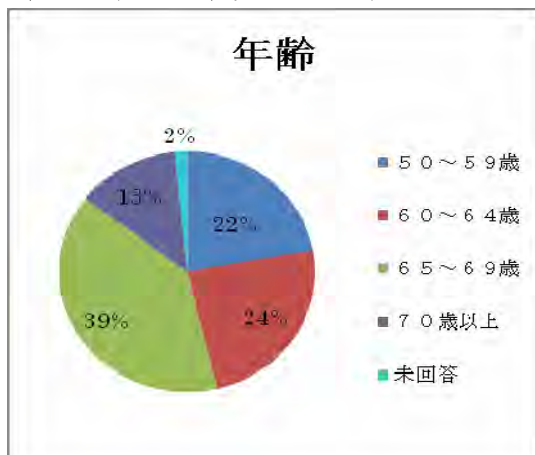
(社)日本ゴルフ用品協会主催の第44回ジャパンゴルフフェア2010は、平成22年2月19日(金)～2月21日(日)の3日間東京有明ビッグサイト東京国際展示場において開催されたが、当協会はこれを後援すると共に出展し、当協会の事業活動のPRを実施した。

Ⅲ. 調査・研究事業

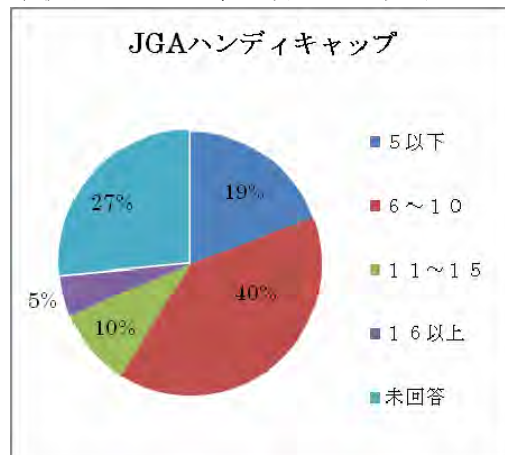
当事業は、ゴルフの普及振興のためにゴルフに関する各種調査・研究事業を実施した。

1. 平成21年度「シニア選手権」、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」参加者アンケートの実施
競技会参加者に対しアンケートを実施、その結果を集計・分析し一層質の高い競技会の実現に資したいと考えている。また、その結果を当協会ホームページ、協会誌「PGS ニュース」に公開し、アマチュアゴルファーに支持される一層質の高い競技会の実現、ゴルファーの啓蒙に寄与したいと考えている。
2. 平成21年度実施シニアパブリック選手権アンケート結果
 - (1) 参加者の年齢 : 60歳以上が63%を占める。50歳代は22%と僅少。
 - (2) ハンディキャップ : 10以下が59%を占める。16以上は5%と低い。
 - (3) 今後も参加 : 「参加する」が80%と多いが昨年度94%から下降。
 - (4) キッカケ : 「上司・先輩の誘い」、「家族・友人の誘い」が76%を占める。
 - (5) ゴルフ仲間 : 同年代のゴルフ仲間が「減っている」と45%が回答。減っている原因は「経済の不況」「体力の衰え」という意見多数。

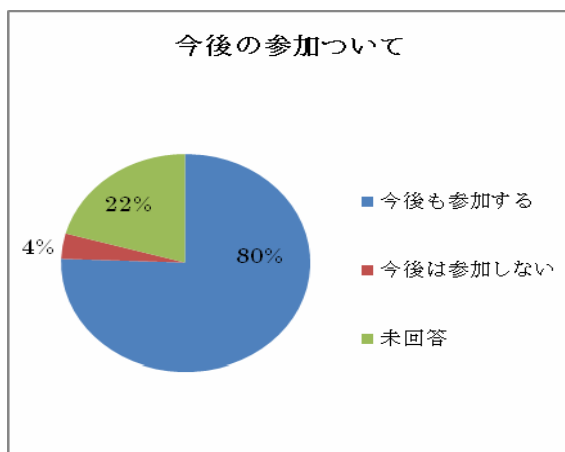
1) 参加者:60歳以上が63%



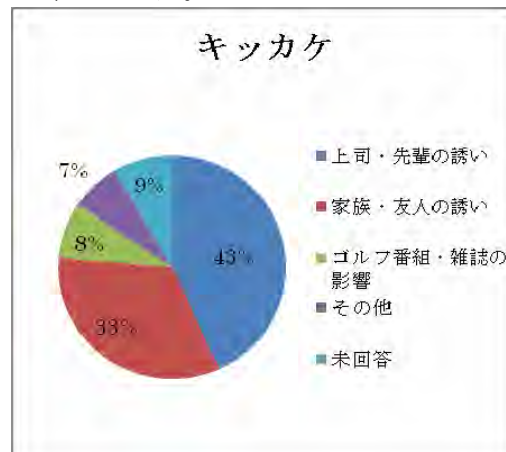
2) 腕前:ハンディキャップ10以下が59%



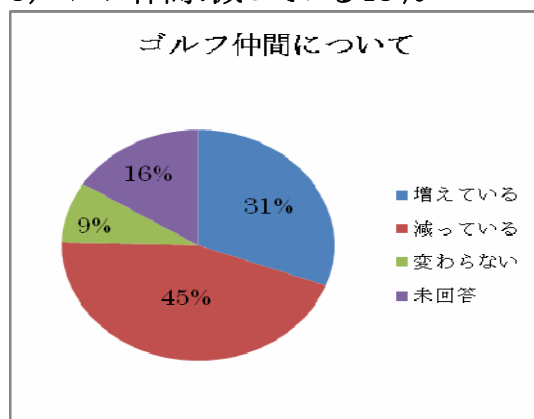
3) 今後の参加: 今後も参加が80%



4) 参加キッカケ: 「上司・先輩」「家族・友人」の誘い76%。



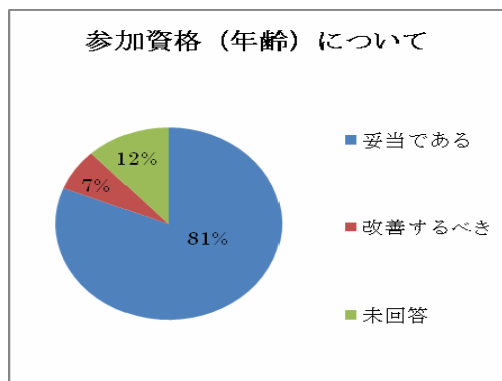
5) ゴルフ仲間: 減っている45%



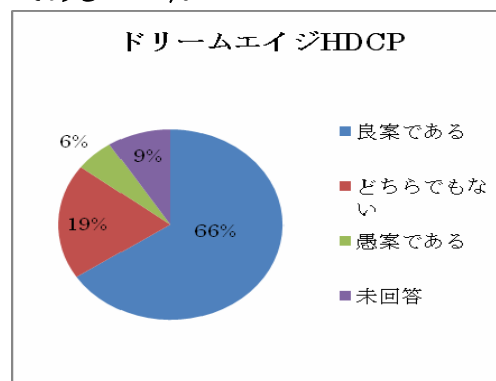
3. 平成21年度PGSドリーム・エイジゴルフ大会アンケート結果

- (1) 参加資格(65歳以上) : 「妥当である」 81%
- (2) ドリーム・エイジHDCP : 「良案である」 66%
- (3) 参加費(3,500円) : 「妥当である」「安い」 36%。「高い」 41%
- (4) 来年も参加 : 「参加する」 69%。「参加しない」 3%。

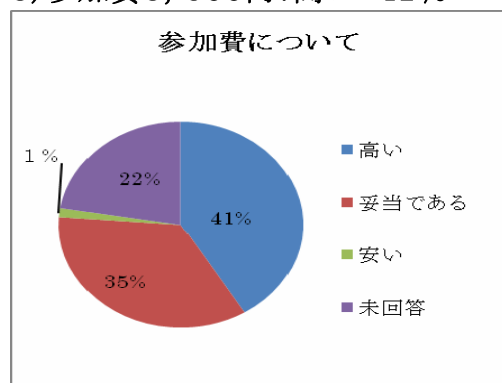
1) 参加費: 妥当である 81%



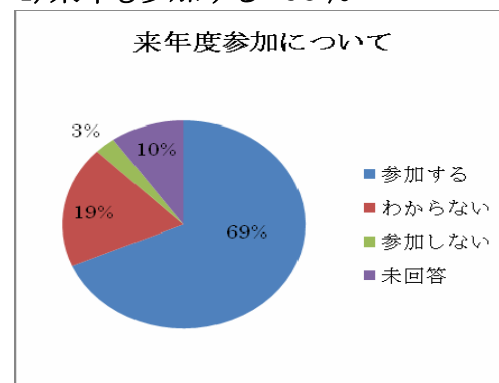
2) ドリーム・エイジHDCP(年齢+歩数): 良案である 66%



3) 参加費3,500円:高い 41%



4) 来年も参加する 69%



(参考)過去の調査・研究実績

- 平成19年度 1. パブリック選手権参加者アンケート
2. パブリックゴルフ場のジュニアゴルファーの受入態勢調査
- 平成20年度 1. シニア選手権参加者アンケート

IV. その他のゴルフ普及振興事業

斯業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。このような状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題であり、当協会もゴルフ市場の活性化に向けゴルファーの底辺拡大施策等様々な取組みを推進した。

1. ジュニアゴルファー育成の取り組み

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)の活動目的のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に資するものであり、斯業界にとってはゴルファーの裾野拡大の観点より重要な課題である。ジュニアゴルファーの育成は業界団体が業界を挙げて取り組み、市場活性化に向けた活動を連携する必要がある。当協会は同協議会の構成メンバーとしてジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

2. スクランブルゴルフの推進 :女性・ビギナーゴルファーの育成

斯業界の長期的展望は前記の通り厳しいが、このような状況下女性・ビギナーゴルファーの育成は、需要創出策として喫緊の課題であり活性化に向け様々な取組みを推進した。

ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)が提唱する、「はじめようゴルフを」のテーマの下に推奨する「スクランブルゴルフ」は女性・ビギナーゴルファーのラウンド初体験を促進するシステムとして有効と考えている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は活動目標の策定、並びにGMAC仕様のスクランブルを構築すべく活動しているが、当協会もゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして連携して活動した。

3. 健康保持増進に資するための高齢者ゴルファーの掘り起こし

平成20年度までは、高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」[主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)]を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による、18ホール・ストロークプレーで、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

4. 他団体との協賛・後援事業

- (1) NPO 日本芝草研究開発機構に対し特別協賛 : バイオマス・マネジメントセミナー
- (2) 社団法人日本ゴルフ用品協会に対し後援 : 第44回ジャパンゴルフフェア2010
- (3) 日本ゴルフサミット会議に対し協賛 : 2010年ゴルフ新年会
- (4) 他団体競技の後援

競技名	主催者
31th ALL KANSAI テレビ アマチュアゴルフ選手権	(株)サンテレビジョン
第1回ウッドフレンズレディースカップアマ・プロゴルフ選手権	森林公園ゴルフ場
日刊アマゴルフ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権	北海道日刊スポーツ新聞社
第24回・第25回アオノジュニアゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
第15回・第16回すきっぷ 21:アオノ親子ゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
日刊アマゴルフ2010 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 全日本レディースゴルフ選手権北海道大会	北海道日刊スポーツ新聞社
2010年近畿オープンゴルフ選手権	サンケイスポーツ

■3. ハンディキャップ普及振興事業

I. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業

1. 自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGAハンディキャップ:国際ゴルフ・ルールに基づき(財)日本ゴルフ協会が発給)が前提条件である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGAハンディキャップは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会は日本全国のアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGAハンディキャップの普及振興を推進している。また、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、競技主催団体にとってはアンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件でもある。

当協会のJGAハンディキャップ取得者は約2万4千人で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることにより、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

2. ハンディキャップ取得者の推移

単位:名

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
JGA ハンディキャップ	21,213	20,262	25,451	23,471	24,663
PGS ハンディキャップ	8,786	8,138	4,714	2,913	2,413
合計	29,999	28,400	30,165	26,384	27,076

3. JGA ハンディキャップ(J-sys)導入状況

平成18年4月に、特別委員会「J-sys検討委員会」を立上げ、JGA ハンディキャップ(J-sys)の普及推進に努めてきたが、この間の進捗状況は下記の通り。

(平成18年4月現在)

	東	中部	西	合計
JGA HDCP	31	10	21	62
PGS HDCP	2	1	21	24
合計	33	11	42	84

⇒

(平成22年3月現在)

単位:コース

	東	中部	西	北・青	合計
JGA HDCP	32	11	40	5	88
PGS HDCP	1	0	1	0	2
合計	33	11	41	5	90

II. JGAコースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及振興のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する(財)日本ゴルフ協会(JGA)に対してコースレート査定を希望する会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき、同協会への申請窓口として機能している。平成21年度は、次の5コースでコースレート査定を実施した。

東日本地区	西日本地区
1. 榛名の森カントリークラブ	1. セントレジャーゴルフクラブ城島高原 2. コート・ベール徳島ゴルフクラブ 3. トム・ワトソンゴルフコース 4. 宜野座カントリークラブ

■4. 助成金事業

本事業はゴルフの普及振興を図るために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に、助成金事業を実施した。

1. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC) :助成金 500千円
当協議会はゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップした。
2. 日本高等学校ゴルフ連盟 :助成金 500千円
当連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施した。

む す び

I.公益社団法人へ移行

1.移行認定

現在、我が国では平成20年12月に公益法人制度改革関連3法が施行され、公益法人新制度移行が進められているが、当協会は本年3月19日に公益社団法人の認定を受けた。

当協会は昭和37年創立以来、生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等豊かな国民生活の実現への寄与を目的として活動してきた。今般の認定に際しては、協会創立精神であるゴルフの普及振興を引継ぎ、公益社団法人として公益目的事業を通じて、民による公益への積極的な参画により社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

また、公益法人の認定を機に、法人名称を平成22年4月1日付にて「社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会」(主管官庁:経済産業省)から、平成6年社団法人格取得以前の「日本パブリックゴルフ協会」(主管官庁:内閣府)に復帰改称し新たにスタートした。

2.事業概要・体系

当協会の事業活動は、創立以来一貫してスポーツ振興の目的の下、国民的スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等、豊かな国民生活の実現に寄与することである。ゴルフの普及振興のためメイン事業として、パブリック選手権競技をはじめとしたゴルフ競技会を開催しているが、移行申請に際して事業体系を次の通り整理した。

(1)公益目的事業

- ①国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴルフの普及振興を図る事業
- ②国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業

(2)収益事業等

アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる公平な統一ハンディキャップの普及振興事業、及びその前提となるコースレート査定事業

(3)その他事業

ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に対し、その育成を支援する観点から助成する事業

3. 事業の種類

(1)公益目的事業(定款第4条)

- ①ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
- ②ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業
- ③ゴルフ関係諸団体との交流、連携を通じてのゴルフ普及振興事業
- ④ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業

(2)収益事業等(定款第5条)

- ①公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
- ②ゴルフ関係諸団体に対する助成金支出事業

【公益社団法人日本パブリックゴルフ協会の事業体系】

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選):(1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝):(1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本月例杯 :みんなでうきうき旅ゴルフ
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
7. PGS東日本プロ・アマチャレンジ	
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. セミナー・研修事業
	2. 交流・協力事業
	3. 調査・研究事業
【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他事業】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

II.日本経済の現状とゴルフ業界の環境認識

日本経済の現状は、足元だけ見ると中国をはじめとしてアジアの景気が回復し、輸出が持ち直し始めており、最悪期は脱して緩やかな回復傾向にある。設備や人員の過剰感はまだ残っており、下振れ要因があるものの自律的な回復期に入ったものと見られる。

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の状況は、平成17年度以降全国ゴルフ場利用者数は増加に転じ、この4年間の利用者の増加人数は延べ5,479千人、増加率6.3%となり、漸く最悪期を脱して明るさが見えはじめた様に思われる。

然しながら、長期的展望は少子高齢化の加速や人口減から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、当業界においては新規ゴルファーの育成によるゴルファーの底辺拡大、需要創出が喫緊の課題であり、業界団体は一層連携を強化し市場活性化に向けた活動を、展開すべきであると思料される。当協会はアマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えている。

【最近のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (数)	1ゴルフ場当たり 利用者数(人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132

平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177

(注)出所: 社団法人日本ゴルフ場事業協会調

IV.平成21年度事業活動の回顧と展望

平成21年度競技会の概況は、スクラッチ競技の参加者数は18,500名(前年度比▲664名)、アンダーハンディ競技は19,576名(同+1,038名)、合計38,076名(同+374名)と大変多くのアマチュアゴルファーの参加を得、改めて選手及び会員各位に対して心から謝意を表す。

アンダーハンディ競技は念願の巻き返しとなったが、一方、スクラッチ競技ではミッドアマは順調であるが、近年メイン競技のパ選、またシニアの参加者人数が年々減少を辿っており、懸念される処である。

公益社団法人移行を機に、今後新たな事業分野等に関し検討するが、メイン事業はあくまでパ選である点は今後も不変であり、往年の1万人台の参加者人数の復活、更には2、3万人と規模拡大を目指したい。

斯業界の長期的展望は、少子高齢化の加速や人口減から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題である。

当協会はゴルフが国民スポーツとして支持され、ゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、また豊かな人間性の涵養に寄与することを望んでおり、『ゴルフをみんなのスポーツへ』をモットーに、会員一同が一致団結してゴルフ普及振興に寄与すべく、弛まない努力を継続したいと念じている。

以上

なお、収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録は、別紙の通りである。

平成22年6月

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

会長(代表理事) 浅井 光 昭